

2020年東近江市環境審議会報告【概要版】

◆開催日時

令和2年（2020年）10月16日（金）10時～12時15分

◆開催場所

東近江市役所 314.315 会議室

◆出席者

東近江市環境審議会委員（敬称略、順不同）

仁連 孝昭、山崎 亨、藤井 紗子、藤岡 康弘、浅見 正人、金 再奎、向 真史、
藤関 明雄、植田 すゑ子、佐川 昭子、小西 恵美子、水野 扶美、猪田 道代、
池田 正男

◆欠席者 野間 直彦委員、綾 康典委員

◆議事

1 開 会

2 自己紹介

3 会長、副会長の選出

4 会長あいさつ

5 議 事

(1)第2次環境基本計画の進捗管理について

(2)国道8号彦根～東近江（仮称）環境影響評価意見について

6 その他の事項

7 閉 会

◆議 事 (1)第2次環境基本計画の進捗管理について

・今までの環境基本計画の流れ

・8つの重点プロジェクトの現状と課題の説明 環境政策課環境政策係

・重点プロジェクトの事例紹介

『100年の森づくりビジョン』

『森里川湖エコツーリズム』 総合政策課森と水政策室

『東近江三方よし基金の取組』 総合政策課

・基本施策2・4 健康で安心して暮らせる生活環境の保全 環境政策課環境保全係

・市内二酸化炭素排出状況 環境政策課環境政策係

◆審議会意見

【CO₂関連】

- ・1. 5°Cの国連の特別報告は2018年。その後、滋賀県もネットゼロ宣言をした。県議会で気候非常事態宣言の請願が全会一致で通った中で、CO₂の問題について、かなり危機感を持っていなければいけないが、今の危機感が感じられない。報告では、2013年をピークに下がっているが、目標に向けてどうなのか見えなかった。

回答→2017年度の130万6,900トンという部分で言いますと、19.5%削減という状態になっております。

- ・二酸化炭素の排出状況は県のデータを使ってる。CO₂の排出量の計算ではなくて、CO₂の排出につながる活動をあらわす指標があるはず。例えば、資源を再利用するとか、またそれをエネルギーとして活用するとか。そういうものは、東近江市で独自にデータ取れる。市が計画を立て進めてるのだから、市が独自にデータを持つことが非常に大事なこと。そうしないと、何がCO₂の削減につながっているのか、つながってないのか判断できない。CO₂の排出量じゃなくて、CO₂の排出につながる活動量を押さえる指標を作ってもらいたい。

【エコツアー関連】

- ・森里川湖のつながり保全再生プロジェクトで、いろんなことをやっていただいて、すばらしい。特に、この東近江市は鈴鹿から琵琶湖までつながっているということで、それを利用されてエコツアーとかを積極的に取り組まれているのですばらしい。
- ・エコツーリズムガイド養成という良い取り組みだと思うが、実際にガイドさんになられて活動しておられる方の需要、お客様はどの程度あるのか。まだ少ないと思うが、今後お客様がついてガイドさんもそれで生業としてやっていただける方が、増えていけば将来性があっていいと思う。

【森おこし関連】

- ・森おこしについて、やはり関係者だけが関わるのではなく、市民がやっぱり森はどうなってるんだと、市民の方から声が出てこないと物事が動かない。市の関与がもっと積極的にやっていただければありがたい。

【愛知川関連】

- ・キャンプに、どのぐらいの人が来ていて、どういうマナーでやっているかという把握がほとんどなされていなかった。ふん尿であるとか、ごみであるとか、愛知川でキャンプする場合は、こんなマナーをということのアピールもできていない。ぜひその指導のガイドラインを作っていただきたい。
- ・今まさにコビット19によって、価値感が変わったり、それから自然資源への関心が高まっている。キャンプ場に来る人たちが2倍3倍になり、これを今いいチャンスだとい

うことで、市民の方々が、身近な自然環境に非常に目を向けるようになってきたというチャンスをどう生かしていくか、すごく重要なまとめをする時である。

- ・今年、愛知川には7月に雨がたくさん降った関係もあって、アユがたくさん上ってきた。愛知川の漁業組合の管轄で入漁者数が、例年の倍以上であった。例年は、150人くらいであるが今年は400ぐらいあり倍以上だった。
- ・全国からいろんな人が釣りに来てお金も落としてくれたことで、そういう点で愛知川は、釣り人が来て観光もしたりする。愛知川のポテンシャルはもっと大きいと思う。

【計画見直し関連】

- ・課題ごとに指標を設けているが、重点事業なりを反映する指標になってるのかどうか見直していく必要がある。
- ・コロナで、今までの流れとは全く別のフェーズに入ると思うが、2020年にどういうふうに社会が変わるか見据えておかないと、2017年に作った基本計画は、このとおりではいけないのではないか。そういう意味では期の途中でも見直しをする必要があるのではないか。
- ・コロナ禍の間に、市民の方々にこれだけ地域にすばらしい自然資源があるということを知らしめる方法を尽力する必要があり、指標も、市民の方が関心を持てるような、目で見てわかるようなことを伝えて、常に市民の方々が、この地域資源、地域社会に関心を持つというところを大きなターニングポイントとして、来年度さまざまな取り組みの見直しや、チャレンジしていくという意識を持って進めていただきたい。

◆議事 (2)国道8号彦根～東近江（仮称）環境影響評価意見について

- ・進捗状況と今後の計画について 滋賀県道路計画課、広域事業推進課
- ・環境影響評価方法書意見案について 環境政策課環境保全係

◆審議会意見

- ・ルートを選定されるということは、何年後ぐらいにできるのか。

回答→事業化するまでに、相当時間は掛かる。事業してからも工事には相当の年数は掛かると思います。

- ・現在、考えられている市の意見として妥当ではないかと思います。

以上